

香川県次世代育成支援行動計画（2010-2014）数値目標の進捗状況

施策名	3. すこやか親子支援の推進
施策を推進するための小項目施策	(1) 安心できる母子保健医療体制の充実
	(2) 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援
	(3) 子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進

これまでの取り組み	○ 妊娠、出産に伴う母子の心身の異常の発生を予防し、すこやかな妊娠、出産を促すために、妊産婦等に対する正しい知識の普及啓発を、市町等と連携して行った。
	○ 安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを推進するため、周産期医療体制の整備を図るとともに、不妊専門相談、女性の健康相談を実施し、女性の健康保持・増進及び不妊の課題に対処した。
	○ 夜間の小児の急病や怪我に対応するため、輪番制や共同利用型による小児救急医療体制の整備を図った。
	○ 「香川県歯と口腔の健康づくり推進条例」を制定し、歯科保健の普及啓発や研修会の実施等により、歯科保健対策の推進に努めた。
	○ 心身ともに健康で豊かな県民生活の実現を目指し、かがわ食育アクションプランに基づいて、①心身ともに健康で豊かな人づくり、②さぬきの食文化の継承・発展と体験や交流の促進による地域づくり、③市町や関係団体等との連携・協働による環境づくりに取り組んだ。

<数値目標の達成状況>

施策の進捗度 (平成22年度～平成26年度)		平均進捗度 (2.64) B 【A評価：5 B評価：1 C評価：1 D評価：4 評価不能：0】						
No	担当部局	目標項目	計画策定時(21年度)	24年度実績値	26年度目標数値	評価	前年度評価(H23)	
1	健康福祉部	乳児死亡率(出生千対)	(H19～21年平均値) 2.3 全国(H20)2.6	(H22～24年平均値) 2.4(香川県) 全国(H23)2.3	過去3年間(H24～26年)の平均値が前年(H25年)の全国死亡率より下回る水準	D	D	
		周産期死亡率(出産千対)	(H19～21年平均値) 3.9 全国(H20)4.3	(H22～24年平均値) 4.2(香川県) 全国(H23)4.1	過去3年間(H24～26年)の平均値が前年(H25年)の全国死亡率より下回る水準	D	A	
2	健康福祉部	1歳6か月児健康診査受診率	92.2%	93.1%	受診率の向上	A	A	
		3歳児健康診査受診率	89.0%	89.2%	受診率の向上	A	A	
3	健康福祉部	総合周産期母子医療センター	2病院	2病院	現状維持	A	A	
4	健康福祉部	不慮の事故による乳児(0歳)平均死亡率(出生10万対)	(H19～21年平均) 23.4 全国(H20年) 13.2	(H22～24年平均) 16.1 全国(H24年) 9.0	過去3年間(H24～26年)の平均値が前年(H25年)の全国死亡率より下回る水準	B	B	
		不慮の事故による幼児(1～4歳)平均死亡率(1～4歳の人口10万対)	(H19～21年平均) 2.9 全国(H20年) 3.8	(H22～24年平均) 7.1 全国(H24年) 2.9	過去3年間(H24～26年)の平均値が前年(H25年)の全国死亡率より下回る水準	D	D	
		乳幼児突然死症候群(SIDS)による乳幼児死亡数(過去5年間累計)	11 (H17～21年累計)	12 (H20～H24年累計)	計画期間中減少傾向	D	D	
5	健康福祉部	麻疹定期予防接種率(第1期:1歳)	93.4%	98.3%	95.0%	A	D	
6	健康福祉部	麻疹定期予防接種率(第2期:小学校入学前1年)	94.2%	95.3%	95.0%	A	A	
7	健康福祉部	3歳児のう歯罹患率	30.1%	26.9%	20%未満	24年度 C	B	

施策名(中項目)	すこやか親子支援の推進		
県政世論調査の結果	平成24年度県政世論調査	最も重要だと思う施策	充実度に不満がある施策
	妊産婦や乳幼児の健康診査など、安心できる母子保健医療体制の充実	23.6%(4位)	10.0%(10位)
	子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	6.6%(11位)	5.4%(12位)
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施策の平均進捗度はBとなっている。 ○ 県政世論調査の結果では、「妊産婦や乳幼児の健康診査など、安心できる母子保健医療体制の充実」を重要だと思う方の割合は高い。 		
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出産年齢の高齢化による低出生体重児の増加や不妊治療の普及による複産(多胎妊娠)の増加の可能性などにより、周産期医療の重要性はますます高まっており、継続した施策の推進が必要である。 ○ 子どもを健やかに育てるための健康づくりを推進するため、健康を保持・増進させる「一次予防」に重点をおいた施策の推進が必要である。 		